

## 【特別寄稿】

群馬県吾妻地区での  
胃ろう患者を  
取り巻くネットワーク

内田 信之

原町赤十字病院 第1外科部長

私たちは胃ろう造設後の  
患者の経過をどれだけ  
理解しているのか？

胃ろうの造設は、多くの場合病院で行なわれると思います。その手技は比較的容易で、慣れた医師であれば短時間で終了します。合併症も非常に少ないと言われてます。そして、胃ろう造設がなされた場合は、その患者にかかわる医師や看護師、管理栄養士、薬剤師は、対象者の全身状態、栄養状態を客観的に評価し、その患者に適した栄養療法を検討することと思います。さらに胃ろう周囲の皮膚変化を細かく観察もします。つまり、胃ろう造設直前から直後にかけて、その病院の職員はその患者に深くかかわります。

一方、その患者がその病院を退院したあとはどうでしょうか？ 胃ろう造設に慣れた医師のなかでも、胃ろうを造設されたあとの患者の経過を正しく知っている人はどれだけいるでしょうか？ その時にかかわった看護師や管理栄養士、薬剤師で、その患者のその後の生活を正しく理解している人はどれだけいるでしょうか？

その答えは明らかです。胃ろうを造設された患者は、造設後に状態が安定すれば、ほかの病院や施設に転院になってしまう場合が多いからです。胃ろうを造設された患

者のその後の生活については、胃ろう造設を担当した病院の職員がそれを積極的に情報入手に取り組まないかぎり、なかなか知ることにはできません。

自施設内の  
胃ろうの現状を知る

胃ろうを造設する病院に勤務する職員としてまず私たちがしなくてはならないことは、病院内でどのような患者に対してどれだけの胃ろうを造設しているかを認識することです。そして胃ろうを造設された後、その患者がどうなっていくのかを知ることです。

原町赤十字病院では、年間30名前後の患者に胃ろうを造設しています。胃ろうを造設する患者の70%以上が、基礎疾患として脳血管障害を持っています。胃ろうを造設された患者の大半は、ほかの病院や施設に転院となっています。在宅に戻られる方は約5%です。そして、年間約90名に対して胃ろうの交換をしています。

## 地域の胃ろうの現状を知る

私が勤務する原町赤十字病院は、群馬県西北部の吾妻郡にあります。吾妻郡の面積は群馬県全体の約20%と大変広いのですが、人口は約6万であり、日本の多くの山

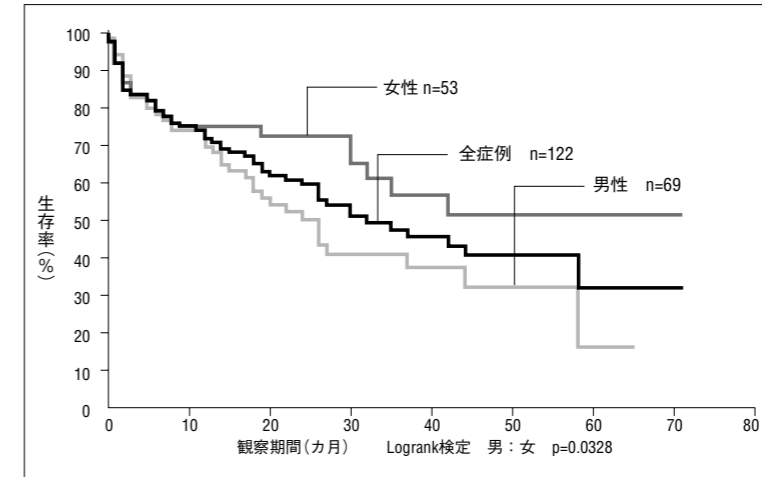


図 胃ろう造設後の生存率

間部と同様、人口減少、少子高齢化が年々進んでいます。この地域で胃ろうを造設しているのは主として、当院と西吾妻福祉病院です。平成19年春、両院職員をはじめ、吾妻地域のほかの医療介護施設とともに吾妻地域NST連携協議会を立ち上げました。この協議会で地域の胃ろうの状況について調査したところ、吾妻地区の各施設や在宅に、当時111名の胃ろう患者(平均年齢78.8歳、男性54名、女性57名)がいることがわかりました。また各施設で使用している栄養剤を確認し、それらの組成を記載した一覧表を作成することで、施設が変わってもスムーズに栄養剤の選択ができるようにしました。

## 在宅胃ろうの患者を知る

医療者のなかで、胃ろうを造設された患者と暮らす家族と接した経験のある方はどれだけいるでしょうか？ 医療者といっても訪問診療を担当しないかぎり、家族と接する機会は少ないと思います。在宅で胃ろうを造設した患者と暮らす人たちが、どんな思いでどんな生活を送っているのか、私たちのほうから積極的にアプローチしないかぎり知ることはできません。

そこで、私たちは平成21年秋、「在宅胃ろうを支援する人たちのための講習会」を開催しました。この時、胃ろうを造設され

た患者と暮らす家族2名に来ていただき、実際の生活や家族の思いなどについて語っていただきました。この講習会で私たちは、在宅胃ろう患者を抱える家族にとって、介護負担が非常に大きいことを知っただけでなく、胃ろう患者に対する地域

のセーフティネットの構築が極めて重要なものであることを確信しました。また、この時の調査で吾妻地域の111名の胃ろう患者のうち、在宅の患者が20名(18%)いることを知りました。男性11名、女性9名と男女差はあまりありませんでしたが、主たる介護者の8割は女性でした。この現状についても、私たちはしっかり認識する必要があると考えています。

## 胃ろう患者の予後を知る

胃ろう患者の予後を知ることは、胃ろうの適応や管理方法を考えるうえで、極めて重要と考えています。胃ろうを造設した医療施設にそのまま続けて入院していることは稀であり、大半が地域の医療介護施設に転院しています。そのため、胃ろう患者の予後を知るには地域全体で調査する必要があります。私たちは、平成18年から22年までの過去5年間に当院で胃ろうを造設した患者139名の予後調査を行ないました。この調査には、吾妻地域の9つの医療介護施設(沢渡温泉病院、田島病院、長生病院、吾妻さくら病院、からまつ荘、いわびつ荘、やまゆり荘、ゆうあい荘、サザン小川)に協力していただき、139名中122名(87.8%)の予後を知ることができました。図のとおり、胃ろう造設後の生存期間中央値は32カ月で、女性は男性より優位に生存期間が

長い傾向にありました。生存という点に関しては、平均寿命に示されているとおり、男性に比べ女性のほうが優れているのでしょうか。

## 吾妻地区 NST 連携協議会の結成

前述の吾妻地域 NST 連携協議会のもっとも重要な目的の1つが、胃ろう患者を地域でしっかり支えていくことです。たとえば他施設から紹介される患者の胃ろうの適応を検討し、適応と判断されれば速やかに胃ろうを造設し、また定期的な胃ろうの交換も同様に速やかに行なえる体制を構築しています。もちろん、胃ろう患者の緊急時の対応についてもスムーズに行なえるようになっています。表1、2に示した胃ろうの造設および交換申し込み用紙を作成したことで、平成21年春以降から吾妻地域ではFAXのやり取りのみで、胃ろうの造設や交換ができるようになりました。特に胃ろうの交換については入院することなく日帰りで行なうことが可能になり、今ではほとんどの方がこの申し込み用紙を利用しています。

以下、当協議会での連携が功を奏した事例を示します。

### 【事例】87歳、女性

脳血管性認知症と脳梗塞後遺症による左片麻痺があり、吾妻地域の特別養護老人ホームに入所していた方です。40度の熱発を伴う誤嚥性肺炎で当院に紹介があり、緊急入院。抗菌薬投与で誤嚥性肺炎が改善したあと、経鼻胃管による経管栄養を行なっていましたが、度々自己抜去があり、家族と相談して胃ろうを造設することになりました(胃ろうの適応についてはいろいろとご意見があると思いますが、ここでは述べません)。

表1 胃ろうの造設申し込み用紙

胃瘻造設申し込み用紙	
平成 年 月 日	
原町赤十字病院 地域医療連携課 TEL: 0279-68-0550 FAX: 0279-68-2529 西吾妻福祉病院 地域医療連携室 TEL: 0279-83-7111 FAX: 0279-83-8032	
○胃瘻造設コース いずれかにチェックをお願いします。 <input type="checkbox"/> 胃瘻造設 短期間コース (1週間以内) <input type="checkbox"/> 胃瘻造設 長期間コース (栄養剤確立まで、10日から数週間)	
○患者様の基礎データ 患者氏名 _____ 年齢 _____ 歳 性別 男・女 _____ 生年月日 _____ M・T・S・H _____ 年 月 日 _____ 住所 _____ 連絡先 _____ 保険者番号 _____ 記号・番号 _____ 本人家族 本人・家族 _____ 有効期限 _____ 年 月 日 _____ 公費・福祉番号 _____ 受給者番号 _____ 退院時搬送方法 _____ 既往歴 (基礎疾患・手術歴) _____	
○患者様の診療データ 抗凝固薬の服用の有無 有・無 _____ 有の場合 抗凝固薬の種類 _____ 新規造設希望器具の有無 有・無 _____ 希望器具が有の場合は希望されるタイプにチェックをお願いします。 希望器具 <input type="checkbox"/> チューブ型バルーンタイプ <input type="checkbox"/> ボタン型バンパータイプ <input type="checkbox"/> その他 _____ 現在の経管栄養施行の有無 有・無 _____ 有の場合 栄養剤の種類: _____ カロリー: _____ Kcal 投与方法・方法 _____ 経口摂取の有無 有・無 _____ 夜間不穏 有・無 _____ 嚥下評価希望 有・無 _____ 造設後の転帰 在宅・貴院・貴施設・その他 ( ) _____	
申込施設名 _____ 連絡先 TEL: _____ 担当医師・担当者名 _____ FAX: _____ ※胃瘻造設申込時は上記用紙と診療情報提供書の添付が必要となりますのでご注意ください。 吾妻地区 NST 連携協議会	

胃ろう造設後、もとの特別養護老人ホームに戻りましたが、その後も3回の胃ろうの自己抜去がありました。その度に入所施設の職員が直ちに尿路カテーテルを挿入し、当院に連絡。そして当院を受診し、3回とも入院することなく胃ろうの再造設が行なわれました。これは吾妻地区 NST 連携協議会のなかで、数回にわたり胃ろう管理の勉強会をしたことに加え、普段から医療者同士が顔の見える連携を実践しているからこそ可能であった事例だと感じています。

## 胃ろうにおける、もっとも重要な問題 — 胃ろうの適応 —

私たちが胃ろうにかかわるほど、胃ろう

表2 胃ろうの交換申し込み用紙

胃瘻交換申し込み用紙	
平成 年 月 日	
原町赤十字病院 地域医療連携課 TEL: 0279-68-0550 FAX: 0279-68-2529 西吾妻福祉病院 地域医療連携室 TEL: 0279-83-7111 FAX: 0279-83-8032	
この度、下記患者様の胃瘻交換をお願いします。	
○患者様の基礎データ ふりがな _____ 患者氏名 _____ 年齢 _____ 歳 性別 男・女 _____ 生年月日 _____ M・T・S・H _____ 年 月 日 _____ 住所 _____ 連絡先 _____ 保険者番号 _____ 記号・番号 _____ 本人家族 本人・家族 _____ 有効期限 _____ 年 月 日 _____ 公費・福祉番号 _____ 受給者番号 _____ 基礎疾患 _____ 胃瘻造設日 _____ S・H _____ 年 月 日 _____ 造設施設名 _____ 最終胃瘻交換日 _____ H _____ 年 月 日 _____ 交換施設名 _____ 現在の胃瘻ボタン・チューブの種類 品名 _____ (バンパー・バルン) 型 / (ボタン・チューブ) 型 サイズ _____ Fr _____ cm	
○患者様の診療データ 1、現在の経管栄養施行の有無 有・無 _____ (液体・半固形) 有の場合 経管栄養剤の種類 _____ カロリー _____ Kcal 回数 _____ 2、夜間不穏 有・無 _____ 3、交換後の転帰 在宅・貴院 (貴施設)・その他医療機関 (施設) _____ 4、問診 胃瘻トラブル (漏れ、発赤、不良肉芽など) はありますか? _____ 有 症状 _____ ・無 _____ 胃瘻ボタン・チューブの上下及び回転の動きは可能ですか? 上下 _____ 可能・不可能 _____ 回転 _____ 可能・不可能 _____ 抗凝固薬は服用していますか? _____ 有 (種類 _____) ・無 _____	
申込施設名 _____ 連絡先 TEL: _____ 担当医師・担当者名 _____ FAX: _____ 吾妻地区 NST 連携協議会	

の適応という問題にぶつかります。胃ろうの適応を考える場合、さまざまな視点があると思います。患者が自分の意思をしっかりと伝えられる場合はいいのですが、現状では稀ではないでしょうか。そうすると、原疾患や年齢、生活レベル、そのほかさまざまなことを検討し、なおかつ家族の考えをよく聞き、それらを総合したうえで検討しなければいけません。

胃ろうを造設することで、その患者にどんなメリットがあるのか、デメリットは何か、そして何より本人は胃ろうの造設を本当に望んでいるのか、よく考えなければいけません。私たちの病院で胃ろうを造設後、経口摂取が可能となった例はわずかに7%です。胃ろうの抜去までいった例は3%です。もちろん胃ろう造設後の管理も重要で

すが、それだけで経口摂取が可能になるわけではないと思います。私たちは、胃ろうの適応という問題に対して、常に真剣に考え、多くの方々の意見を聞き、患者やその家族にとってよりよい方法がとれるよう、努力していかねばならないと考えています。

この問題を常に深く考え続けることは、医療者の重要な責任です。今こそ胃ろうの適応について深く考えるべきです。胃ろうの適応を考えることは、人生を考えることになります。私たちはこの哲学的ともいえる問題を真剣に考え続ける義務があります。

## 胃ろう患者を取り巻く今後の展開

胃ろうを造設された患者がよりよい生活を送ることができるようにと考えた場合、1つの医療施設がいくら頑張ってみても答えが出ることはありません。まして、1人の医療者が解決できるなんてことは毛頭ありません。在宅に帰ることのみが最善だとも思いません。地域全体で支える体制を構築することがもっとも重要であると考えています。

医療のあらゆる分野で地域連携が必要とされています。私たちは、「あがつま医療アカデミー」というNPOの立ち上げを検討し、現在県に申請中です。吾妻地区の医師、歯科医師、薬剤師、看護師、管理栄養士とともに、医療者の職種の垣根を超えた会をつくるつもりです。この会のなかで、胃ろう患者を取り巻く連携をはじめ、さまざまな医療の分野において各職種間で協力しながら、吾妻地区の医療をよりよいものにしていこうと考えています。いつの日か、この会の活動の報告ができることを楽しみにしています。